

第 29 回情報処理センター等担当者技術研究会

共通機器部門 情報基盤機器管理班

中川 敦

1. はじめに

国立大学、公立大学等の情報系センター等に勤務する技術職員が集まる本研究会は、大学における情報システムおよびネットワーク基盤の管理・運用に関する問題点や解決策を議論、共有することができる数少ない機会である。新しい技術を習得し、業務に取り入れ業務の効率化を図るとともに、他大学等の技術職員との繋がりを作るため、本研究会に参加し、今後の研究会運営について討議する運用連絡会議にも参加した。

2. 期間・場所

期間：平成 29 年 8 月 31 日、9 月 1 日

場所：地方職員共済組合繋保養所 清温荘（岩手県盛岡市）

3. 参加者等

国立大学、公立大学等、あわせて 37 機関より 61 名が参加した。

4. 研修内容

いろいろな大学の現状報告やポスター発表を聴講して、各大学の取組みとそれに関わる課題や対策について考える機会を得た。また、特別講演ではセキュリティ実務者の育成に関する話を、情

報セキュリティ監視を行う会社の方から伺った。さらには、東日本大震災発生時に石巻の大学で勤務されていた方の報告を聞き、当時撮影された現場写真を見て、災害後に授業を再開できるまでの道のりが長いことを知った。

5. まとめと感想

さまざまな内容の発表があったが、なかでも安否確認システムに関する発表とその質疑では深く考えさせられた。非常時には電源は言うに及ばず携帯電話の電波も使い物にならない事があり、それを想定したシステムの作り（衛星回線を確保するとか、必要となるデータは予め紙に印刷しておくとか）をしておかないと、いざというときに何もできないことになりかねず、安否確認の難しさを知らされた。

またセキュリティ実務者の育成に関する話は、「失敗することで勉強になる」けど本番では失敗するわけにはいかないので「失敗できる場を作る（＝演習を行う）」が大事で、しかも演習後、失敗の原因を振り返り、「再度演習を行う」のがよいとの話であった。これはセキュリティ実務者の育成に限った話ではなく、すべての事に通じると感じた。今後の業務に活用したい。